

地域とともにある

学校を目指して

少子高齢化やグローバル化の進展、技術の進歩などにより、これからも社会は大きく変化することが予想されます。また、価値観やライフスタイルの多様化などにより、家庭や地域のつながり、支え合いが希薄化し、身近な人同士で助け合う機会が減少するなど、社会全体の教育力の低下が全国的に指摘されています。

子どもたちが将来自立して活躍するためには、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力など」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の育成、いわゆる「生きる力」の育成が強く求められています。

市教育委員会は、『学校』と『家庭』、『地域』が相互に連携、協働する必要性を再確認し、『学校』を中心に、地域社会が一体となって子どもたちを育む『地域とともにある学校』づくりを進めています。

地域の実情に応じた

特色ある教育

登別市では、学校週5日制の開始時より子どもたちが土曜日を有意義に過ごすため、中学校区ごとに活動を支援する「地域交流プラザ」を組織し、地域の方の力を借りてさまざまな体験活動事業に取り組んできました。平成21年度からは、発展的に一層の充実を図るものとして、『学校支援地域本部事業』を進めています。

また、学校運営においては、『学校評議員制度』を導入し、地域の皆さんの意見を学校運営に反映させてきました。平成26年度には、地域に開かれた学校

づくりをさらに進め、学校と地域が目指す子ども像を共有し、子どもたちをより健やかに育めるよう『学校評議員制度』

と『学校支援地域本部事業』を基盤とした『学校運営協議会制度（コミュニティスクール）』をスタートさせました。

それぞれの学校では、町内会役員や民生委員児童委員、保護司、地域企業関係者などで構成される学校運営協議会で、その学校の経営方針の承認や具体的な学校支援など、地域の実情に応じた特色ある教育が推進されています。



▲各学校に設置している学校運営協議会

地域の方に支えられて

～学校運営協議会を通じた活動～

登下校の見守り活動をはじめ、放課後学習や読み聞かせ活動に対するボランティア支援、地域合同避難訓練、学校の近くにある教育資源を活かした自然体験学習などが実施されています。



▲ボランティア団体による読み聞かせ



▲地域の皆さんによる登下校の見守り活動



▲地域の方が先生となる放課後学習教室



▲富岸川で行われた魚捕り体験